



立松和平

前々回のこの欄(四月一日付)で、私は四月二十一日(日)に足尾に木を植えよと呼びかけた。地元足尾の「足尾に緑を育てる会」事務局には多くの問い合わせがあり、

私は読者にその日の様子を報告する義務があるのではないかと思ひ、こうしてペンをとる次第である。執筆の順番の巡り合わせで、報告が遅くなったことをおわびしたい。

その前夜は雨が降ったのであるが、当日は気持ちよく晴れた。植林には土が湿っているのが好都合であった。植林現場はいくまでの若葉の山にはヤマザクラやヤシオツツシの花の淡麗な色を見る事ができた。春の気持

足尾に緑の夢 600人が植林

ちのよい日であった。

植林の現場の大畑沢は、表土のまったくない急峻な谷で、下のほうの比較的なだらかなところは昨年までにあらかた植林はすんでいた。今年の植林場所は、谷を登った急な斜面である。

その場所は、国土交通省の手により土止めの工事が行われている。そうであるならば足元は危険だし、苗を植えても土砂崩れで流れてしまう。重い苗や土を肩で担いで上げ



市民ボランティアが荒廃した足尾の山に緑の再生を始めて6年目。渡良瀬遊水地で育ったヨシが今年初めて使われた。4月22日、栃木県足尾町の大畑沢緑の砂防ゾーンで

るのは難儀きわまるのである。で、工事用の鉄索で前日、苗を植えても土砂崩れで流れてしまう。重くおいた。当日は植林にはいりきれなかった車に五百部用意した資料が、道の片側に延々と止められた。警察が交通整理をしてくれた。集まった人は約六百人だ。受付一人一人は、自分の心の中、木を植えていった。(作家)

は百人以上いた。

元気な人は急な斜面で、自信のない人はこれまで植えた森の管理をしてもらう。無償どころか会費をとられる植林活動に、こんなにもたくさんの方がきてくれ、私は頭がさがる思いだった。千五百本用意した苗木はすべて植え、個人で持ってきた木もそれに負けない本数植えたはずである。